

上智大学 × 飯舘中学校



震災後に始まった夏休みの交流。6回目となる今年は、9人の学生・院生が、1週間にわたり飯舘中学校の学習支援・部活動支援を行いました。大学側からは企画を持ち込まず、中学校などの希望に寄り添う形で交流しているそうです。上の写真は学習支援の様子です。交流の最終日には涙を浮かべて別れを惜しむ生徒もいました。「気軽に話せて仲良くなれた。本当にありがとう、それだけ伝えたいです」。



高橋一星さん
上智大学大学院の2年生。大学1年生から全6回交流に参加してきました。

毎夏村へ来て、一年ごとの変化を感じてきました。よい方向へ向かっている一方で、人口減少や風評などの課題もあり、そのままにしてはいけない、何とかしていきたいという思いが、自分にもあります。子ども達と再会すると「あー！星君だ」と声をかけてもらえて、うれしかったです。相手に受け入れてもらうためには、自分から心を開くことが大切なのだと思ふことができました。

村の魅力を写真集に



移住相談室では、村の魅力を広く伝える写真集の制作を行っています。制作にあたって、昨年度から村主催のカメラツアーの講師を務めていただいている宮本さんに撮影を依頼。季節を追いながら、村の風景の撮影を進めています。



宮本章光さん
カメラマンとして写真研修の講師も多数務めています。

こちらに来るまで、飯舘村が「日本で最も美しい村」の一つであることさえ分からなかったのですが、写真を撮ってみて、自然の「気」に圧倒されました。誰かに見せようとして手を入れたのではない「美しさ」や自然の「気」が写真を撮らせてくれるのです。私も自然に親しんで育ってきたのですが、それとは違う力を感じます。写真の本当の楽しさを、この風景の中で、もっと伝えていきたいですね。

この夏の出会いや交流をお伝えしました。掲載はその一部で、さらにたくさんの皆さんが、村を訪れ、村と関わり、力を与えてくださっています。感謝を力に、これからもたくさんの方に訪ねていただけるよう、魅力ある村づくりを進めていきましょう。Welcome to いいたて！

絆甲子園の始球式に登場



大内良真投手(佐須) 安齋海人捕手
堂々と始球式を務めた福島商業高校バッテリー。「福島リトルシニア」の後輩達の試合も観戦し応援しました。

8月3日・4日に、「いいたて球場」で開かれた「第9回絆甲子園」。この大会は、東北の中学生達に、硬式野球を通じて仲間と出会い、経験を力にしてほしいと、震災後に始まった大会です。開会式には、「福島リトルシニア」の出身で、県立福島商業高校野球部で活躍するバッテリーが、始球式に登場しました。ピッチャーの大内良真さんは、飯舘中学校の卒業生。「新しい設備は加わりましたが、球場の雰囲気は変わらない」と懐かしいマウンドの感触を味わっていました。高校卒業後は進学して野球を続ける予定だそうです。

ただじゅんさん × 子ども達

飯舘は、前を向いて生きていくこととして、いつも感じます。こうして継続して子ども達と遊べるのが、とてもうれしいです。西日本豪雨の被災地にも行っていましたが、現地に行くと目で見ないと分からないことがあります。僕の視点でそれぞれを伝えながら、交流を続けていきたいと思っています。

ただじゅんさんは、震災後のボランティアを始まりに、その後は文化祭などで、村の子ども達に楽しい遊びを伝えてきました。この夏は、子育て支援センター「すくすく」と「まていの里のこども園」を訪問。子ども達が、身近なものでできるワクワクの遊びや工作を体験しました。

ただじゅんさん
舞台実演家。遊びの達人。



こども園での様子。園児と学童保育の児童が参加し多彩な遊びに目を輝かせていました。